


ふりがな 氏名	おおた ゆうと	都道府県	愛知県	
	太田 優人			
所属/肩書	名古屋大学教育学部附属高等学校在学			
私の ESD活動	【Youth as Change Agents】多様な概念を包括する “sustainable society” 実現のため、ユース世代に よる「分野横断的 ESD」を推進してきました			

活動の概要（特に、取り組みの独創性、革新性、成果について説明してください）

地域のソーシャルキャピタル創出を目的に、愛知県中から50名以上の高校生を集め選挙権啓発企画を実施。さらに高校生による「政策争点投票」型の模擬選挙を実施し、900票以上の10代の声を集めた。

バングラデシュを訪れ、JICA や 11 もの現地 NGO で貧困削減・環境保護活動を見学。また Prothom Surjo という団体と協力しスラムで英語教育を行ったり、ノーベル平和賞受賞者のユヌス氏と特別に面会したりした。

広島で国際平和と核問題に関する外国人への聞き取り調査を実施。その後 90 名もの中高生やドイツ・韓国からの留学生を集め、ハーバード大サンデル教授の授業を基に国際平和に関する熟議型イベントを実施した。

日本のユネスコスクール代表団として UNESCO 本部を訪れ、ESD 担当職員へのプレゼンや、ボコバ事務局長との意見交換を行った。またドイツの ESD モデル校を訪れ、環境保護活動を視察した。

名古屋大学法政教育研究センターの協力でモンゴルの高校生と定期的に TV 会議を開催。経済発展の最中にあるモンゴルの高校生と環境問題・文化保護について議論を深めた。また前駐モンゴル大使城所卓雄氏に来校して頂き途上国の開発に関する勉強会を開催した。

伝統芸能「棒の手」や郷土祭の若き担い手として活動。また高齢者への聞き取り調査や名古屋市誌等を通して郷土史の研究を進めた。そして学んだ伝統文化を世界に発信するべく、世界 11 カ国からのホームステイ受け入れを行った。

「地球子ども会議」のメンバーに選ばれ中国を訪問。南京の高校生と国際平和や環境問題に関する会議を開いたり、上海万博で日本側代表として平和構築に向けたスピーチを行ったりした。

アジア 14 か国から選ばれた若者が集う「アジアユース人材育成プログラム」に参加。各分野の専門家による講演とディスカッションを通して、3 週間にわたり貧困問題や環境問題を学んだ。また開催地沖縄の民家に宿泊して伝統芸能を体験したり、環境保護活動を実施したりした。

・朝日新聞デジタル掲載記事：<http://www.asahi.com/edu/articles/NGY201304180009.html>

・ユネスコスクール加盟校高校生スタディーツアー：<http://www.unesco.or.jp/unesco/news/2012/3741217044404.html>

今後のESDの発展のために、若者はどのような役割を担えますか？

【地域文化から地球文化へ】・・・地域の伝統文化に根付く世代間倫理や自然との相互依存精神は、ESD の発展に欠かせない要素だ。そこで若者が、こうした前近代の地域文化を現代の地球文化として発展的に継承するべきだ。この役割については SATOYAMA イニシアチブや世界寺子屋運動などの成功例があり、私も外国人と共に祭や世界各国で伝統文化を広める企画等を進めてきた。さらに今後若者がこうした役割を担うことで、高齢者と若者の連携促進や文化衰退の防止も実現できるのだ。

【国際協調の先例を】・・・アジア各国の友達と米軍基地の横を通りすぎた時のこと、友達の母国に刃を向けているその基地の存在は、国という枠を越えて絆を深めてきた私たちにとって負担にしか見えなかった。そこで私は、既存の対立関係を乗り越えて国際協調の先例を示す事こそが若者の役割だと感じた。世界中の若者たちと共に考え、話し合い、行動を起こしてきた私は、若者にはそれが可能だと確信している。